



令和 8 年度 聴覚障がい児支援中核機能事業の 実施計画について

神奈川県 障害福祉課

令和 8 年 7 月 24 日

<取組内容> 「聴覚障害児支援中核機能強化事業実施要綱」に基づき、以下を実施

- 1. 聴覚障がい児に対応する協議会の設置**
- 2. 聴覚障がい児支援の関係機関との連携**
- 3. 家族支援の実施**
- 4. 巡回支援の実施**
- 5. 聴覚障がい児の支援方法に係る研修の実施**

<実施体制>

取組 1

県主催による協議会

取組 2 - 5

県聴覚障害者福祉センターの指定管理業務

(指定管理者：社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会)

<協議会の目的>

聴覚障がい児及びその家族に対し、**早期から必要な支援を切れ目なく提供**できるよう、**各分野の関係機関等が連携した支援体制を整備**し、早期支援を推進するため、「神奈川県聴覚障がい児早期支援体制整備推進協議会」を令和4年度より設置している。

<令和8年度 協議会 開催実績・予定>

第1回 令和8年7月24日 開催

議題：「令和8年度聴覚障がい児支援中核機能事業の実施計画について」

第2回 令和9年3月末 予定

議題：「令和8年度聴覚障がい児支援中核機能事業の実績報告について」

<目的>

聴覚障がい児に対する切れ目ない支援体制の構築を目指し、医療・保健・福祉・教育などの関係機関とのネットワークを整備し、連携を強化する。

<主な関係機関>

- ① 市町村
- ② 医療機関
- ③ ろう学校

①市町村

母子保健・療育・障害福祉・保育の担当部署を訪問し、事業の紹介や情報交換を行う。

<母子保健、療育>

- ・相談者宅への**同行訪問**が可能
- ・新生児聴覚スクリーニング検査をパスしても難聴になる可能性があるため、**乳幼児健診**での**確認**が必要

<障害福祉>

- ・**補聴器**や**補聴援助システム**（ロジャー等）の**助成**について

<保育>

- ・家庭など静かな場所で気づきにくい**後発性難聴**を、**保育園**など集団生活の場で**支援者が気づく**ケースがある
- ・**共働き家庭**の増加により、**0～1歳児**での**入園希望が増加**
⇒**先生方に意識を高めてもらう**機会を作るために、**今年度より**保育の担当部署も訪問し、事業の周知を行う

①市町村

第1四半期 訪問先

5月 茅ヶ崎市、横須賀市
⇒茅ヶ崎市保育課からのご提案で茅ヶ崎市の
保育園園長会・幼稚園園長会で事業説明の時間をいただくことになった
⇒園長会では事業説明に加え、「**難聴児が来年入学する予定のため、
巡回支援はお願いできるか**」等質問が挙がった。

6月 海老名市

第2四半期以降 訪問日程調整済み…大和市、厚木市、海老名市、綾瀬市
横須賀市私立幼稚園・認定こども園園長会

市町村担当者が異動により変更となる場合があるため、事業説明を行い、顔の見える関係づくりを図る

②医療機関

子どもの診断や支援に関わる**県内の代表的な病院**や**出産施設**を訪問する。

- ・リーフレット「きこえの検査で『リファアー』といわれたご家族へ」を配布し、事業を紹介しながら出産施設を巡回していることを説明し、連携を深める
- ・出産施設については、令和7年度に訪問できなかった地域を中心に訪問する

第1四半期 訪問先

5月

- ・横須賀マタニティクリニック（横須賀市）
- ・ぷくぷく助産院（横須賀市）
- ・横須賀市総合医療センター（横須賀市）

6月

- ・かもめ助産院（横須賀市）
- ・後藤産婦人科（横須賀市）

※上記はすべて新生児聴覚スクリーニングを実施する出産施設

第2四半期以降 訪問日程調整済み…北里大学病院

②医療機関

3つ折りリーフレット 「きこえの検査で『リファー』といわれたご家族へ」

(表)

きこえの検査で
「リファー」と
いわれた ご家族へ



赤ちゃんのご誕生
おめでとうございます

このリーフレットは大切なお子さんのきこえの相談をとおして、
お子さんの健やかな育ちをサポートさせていただけることを願って作成しました。
赤ちゃんのお耳のことについて、ささいなことでも遠慮なくご相談ください。
ゆっくり一緒に考えていきましょう。

神奈川県聴覚障害者
福祉センター



連絡先
神奈川県聴覚障害者福祉センター
〒251-8533 神奈川県藤沢市藤沢933-2
TEL: 0466-27-1911 FAX: 0466-27-1225
メールアドレス: soudan@kanagawa-wsd.jp
神奈川県聴覚障がい児支援中核機能事業

(裏)

「パス」・「リファー」
(要再検査)ってなに？



パス きこえの反応があった

リファー 今回の聞こえの検査では「反応あり」とならなかったために「詳しい検査をしましょう」という意味です。

※リファーは「refer」「要再検査」と表すこともあります。

詳しい検査を受けるまでに
今、赤ちゃんのためにできることは？



生後間もない赤ちゃんは全身で
周囲からの愛情を受けとっています。

目と目を合わせて
微笑みかけ
たっぷり抱っこしましょう

ママ・パパの笑顔はなによりも赤ちゃんを幸せな気持ちにし、心の安心につながります。

赤ちゃんの気持ちを
満たしてあげましょう



赤ちゃんは泣くことで自分の気持ちを表します。
泣いた時に「どうしたの？おなかがすいたかな？」と
ママ・パパが気持ちをくみとり満たされることで
周囲の人・自分自身を信頼できるようになります。

ひとりだけ、
家族だけで
悩まないで

私たちは詳しい検査を受ける前からの相談に応じています。
相談はきこえの専門相談員・言語聴覚士・先輩ママなどがお受けします。
不安なお気持ちを伝えていただくだけでもかまいません。何でも遠慮なくご連絡ください。
※相談は無料です ※連絡先は裏面

出産施設は令和 6 年度から訪問を開始したことも踏まえ、引き続き医療機関側を通じた保護者への周知方法について検討し、連携強化する

③ろう学校

家族教室等の事業の紹介を行い、対応した事例について情報共有し、連携を深める。

第1四半期

4月 県立平塚ろう学校、横須賀市立ろう学校

5月 県立相模原中央支援学校

<情報交換の内容>

- ・それぞれの事業内容などについて情報交換をする
- ・育児休暇終了後に復職する保護者が多いため、平日開催の行事の参加者が少なく、土日の参加者が多い

定期的に情報交換をする機会をつくり、連携を強化する

<支援内容>

保護者等に対する相談や情報提供を実施し、
聴覚障がい児とその家族が交流する場「家族教室」を開催する。

- ① 相談支援
- ② 家族教室

①相談支援

聴覚障がい児の療育や日常生活、コミュニケーション、社会資源の活用等、きこえに関する様々なご相談を受け、関係機関と連携して支援を行う。

第1四半期 相談件数

	聴力 検査	補聴器	コミュニケー ション	指導機関 ・進路	医療	福祉	関係機関 調整	その他	計
4月	8	8	24	4	3	2	6	1	56
5月	3	13	18	1	2	5	2	0	44
6月	7	6	39	1	1	3	5	1	63
計	18	27	81	6	6	10	13	2	163

<参考>令和7年度

4月	7	10	17	4	2	1	1	1	43
5月	3	5	21	4	3	3	1	1	41
6月	5	9	23	7	3	1	2	1	51
計	15	24	61	15	8	5	4	3	135

①相談支援

第1四半期 相談の事例

■相談事例

(内容)

- 子どもが**幼稚園の環境を騒がしく感じているが、補聴器を外すと先生の声が聞こえなくなり、その状況を嫌がっている。**
- **避難訓練で防災頭巾をかぶることで先生の指示が聞こえなくなる**と言っている。

(対応)

- 先生の声が届きやすくするため、**補聴援助システムを貸し出した。**
- 防災頭巾ではなく、**ヘルメットを着用**するなど工夫を保護者と一緒に考えた。

②家族教室

聴覚障がい児や家族同士が出会い、つながる場として家族教室を毎月 2 回程度開催

- ・ 今年度より対象を 0 歳から小学生までのご家族に拡大
※今年就学する保護者から、「小学生になっても集まる機会が欲しい。」との声が寄せられた
- ・ 県地域福祉課委託事業「しゅわまる」のご紹介
※絵本の手話語りや手話でのさまざまな遊びを通し手話でのコミュニケーションを親子で楽しむ場

②家族教室

家族教室①

- ・ 交流テーマを設定
- ・ 日ごろの疑問や悩みについて情報交換
- ・ 先輩保護者による体験談の共有

開催事例 4月25日（土）「シャカシャカおにぎりを作ろう！」
会場：聴覚障害者福祉センター 7家族18名参加

5月16日（土）「先輩保護者に聞いてみよう」
会場：厚木市民交流プラザ 5家族11名参加



<参加者の感想>

- ・ 年齢が近い方、少し離れた方どちらもいて、色々なお話を聞け、今後のイメージが湧いた。
- ・ 他のお家の方との会話のきっかけをスタッフの方が作って下さり、悩みも丁寧に聞いてもらえた。

②家族教室

家族教室②

「つたえるつたわる楽しいやりとり」

- ・ **ろうの講師** から、個別に手話を通じたやりとりを学ぶ
- ・ ご自宅から近い場所で、少人数で手話を学んでみたいご家族向け
- ・ 手話を学ぶきっかけを作る

開催事例

5月26日（火）

会場：おだわら市民交流センター「UMECO」 3家族5名参加

6月12日（金）

会場：プロミティあつぎ 2家族5名参加

<家族教室の様子>

- ・ 保護者は手話を使って講師に何とか伝えようとする意欲がある。子どものサインネームを提案した際には、「そういうものがあるんですね！」と子どもに繰り返し伝えていた。
- ・ 子どもはお話し好きだが、音声だけでは伝わらないこともあり、手話をよく使っている。

<支援内容>

保育所、児童発達支援センター等を巡回し、職員に対して支援を行う。

第1四半期 訪問先

- 4月 保育所 1施設（寒川町）
- 5月 保育所 3施設（海老名市、藤沢市）
児童発達支援事業所 1施設（小田原市）
- 6月 保育所 4施設
（小田原市、藤沢市、平塚市）
幼稚園 1施設（南足柄）

支援内容

- ・園児の様子を観察し、先生や保護者の困りごとを共有。
まず、先生に**難聴体験**をしていただき、聞こえにくい状態の理解をしてもらった上で、音声だけでなく、**手話や絵（写真）カードを活用**し、これから何をするのか**視覚的に伝える方法**が、わかりやすいと説明した。
- ・**園からの希望を受けて**巡回した際、先生との相談の中で、**園児が病院にしかつながない**状況を伺い、ろう学校等の情報提供をした。

<訪問の経緯>

- ①相談でセンターに通う保護者からの依頼 ②昨年度の支援者研修に参加した園からの依頼
③直送した巡回支援のチラシから繋がった など依頼のケースはさまざま
⇒引き続き周知に努めながら、巡回支援を実施する

乳幼児が通う施設（保育所、幼稚園等）の職員を対象に、聴覚障がい乳幼児の早期発見や療育の重要性、接し方等に関する**研修会**を、**計 5 回**実施する。

第 1 回研修会

日程：6 月 5 日 参集・オンライン・オンデマンド併用

会場：聴覚障害者福祉センター

講演「聴覚障がいの基礎知識」

講師：荒井 康裕 先生（横浜市立大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

参加者：59名（参集2名・オンライン11名・オンデマンド46名）

感想

- ・ 保護者と話す上で、まずは**聴覚や補聴器など基本的なことを知りたい**と思っていたので、良かったです。（幼稚園・保育教諭）
- ・ 保育園などで**保護者から聞こえ方の相談**があった場合、「様子を見ましょう」ではなく、**すぐ医療機関を勧めた方がよい**ということを知り勉強になりました。（保育園・保育士）

第2回

日程：8月4日 参集のみ ※対面で、難聴疑似体験・情報交換を行うことが目的
講演「きこえない・きこえにくい子が安心して過ごせるように
～難聴体験を通して考える～」

講師：野田 学 先生（横須賀市立小原台小学校 特別支援学級担当教諭）
山本 裕美 先生（横須賀市立ろう学校 乳幼児相談担当教諭）

第3回

日程：10月8日 参集・オンライン・オンデマンド併用
講演「きこえない・きこえにくい子のより良い支援について
～地域の園でのかかわり～」

講師：藤沢保育園 担当者

第4回

日程：12月8日 参集・オンライン・オンデマンド併用
講演「難聴乳幼児の療育」
講師：島村 広美 先生（横浜市総合リハビリテーションセンター 言語聴覚士）

第5回

日程：2月16日 参集・オンライン・オンデマンド併用
講演「きこえない・きこえにくい子の明るい未来に向けて」
講師：菅原 仙子 先生
（東京都難聴児相談支援センター、東京都立大塚ろう学校、
東京都立葛飾ろう学校 相談員 言語聴覚士）

聴覚障がい児中核機能事業以外の県聴覚障害者福祉センターで実施している乳幼児関連の事業について

勉強会



内容

- ・ 聴覚障がいに関する理解を深める機会として、様々なテーマで年5回実施
- ・ 保護者、関係者等多くの方が参加

グループ支援



内容

- ・ 聴覚障がい乳幼児とその家族を対象に、コミュニケーションについて来所支援を行う
- ・ 3期制（4～7月、9～12月、1～3月）に分かれ、年齢別でのグループ支援
- ・ 原則週1回～月1回程度

市町村子育て支援担当者研修会



内容

- ・ 市町村の保健師等の子育て支援担当者を対象にした研修会
- ・ 新生児聴覚検査の意義や保護者支援の重要性について理解を深める